

ねらい

「共に生きる～くらしやすいまち〇〇地域～」という総合的な学習の時間に、「保育園で自分たちができること」を考える課題で、園児との交流を通して、共に生きる喜びや支え合いを感じるとともに、児童の自己肯定感を高める。

ポイント

4年生が保育園に行き、園児と交流をした。4年生を4グループに分け、4回の保育交流で、全てのクラスの園児と交流できるようにした。

実践内容

◆第1回交流(6月9日)1歳児・2歳児クラス…砂遊び、3歳児クラス…公園遊び(鬼ごっこ・遊具遊び)、4歳児クラス…公園遊び(けいどろ遊び)、5歳児クラス…歌・いす取りゲーム・塗り絵遊び活動終了後、児童は振り返りをする。

◆第2回(7月5日)、第3回(11月10日)、第4回(12月11日)の交流においても、第1回の交流内容と同様の活動を行い、各グループが毎回異なるクラスと交流するようにし、様々な年齢の園児と関われるようにした。



手をつないで
気をつけて
歩こうね。



砂で何を
つくろうか。



本当に
かわいいな。

お姉ちゃん、
大好き。

逃げろ。
つかまらな
いぞ。

交流の活動の最後には、小学校
生活の楽しさを園児に知らせ、
お世話になった園の先生に、感謝
の気持ちを伝える。

交流を振り返って

- ・園児との交流を通して、児童は協調性や共感性をもつことができた。また、自分の行動が他人に影響を与えることが分かり、責任感を持つことができた。さらに、園児とのコミュニケーションを通じて、言葉遣いを考える機会となり、表現力を向上させることができた。
- ・園児を世話することで、他人への思いやりや優しい気持ちが児童の中に育ち、園児の笑顔に触れることで、自己肯定感も高まった。
- ・地域では子ども同士で遊ぶことが少なくなっているので、保育園と小学校との連携で一緒に活動することが大切であることを再認識した。
- ・天候(雨の場合)によって、活動場所が限られるので、予備日の設定が必要であった。